



## メディア研究部門年次報告2011

加藤, 雅之 ; 柏木, 治美 ; 大和, 知史 ; ピンテール, ガーボル ; 中井, 絵美 ; 田中, 香緒里

---

**(Citation)**

神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 8:131-155

**(Issue Date)**

2011

**(Resource Type)**

departmental bulletin paper

**(Version)**

Version of Record

**(JaLCD0I)**

<https://doi.org/10.24546/81003816>

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003816>



# メディア研究部門年次報告 2011

(Annual Report of the Multimedia Division 2011)

加藤 雅之<sup>1</sup> 柏木 治美<sup>2</sup> 大和 知史<sup>3</sup> ガーボル・ピンテール<sup>4</sup>

中井 絵美<sup>5</sup> 田中 香緒里<sup>6</sup>

1. 外国語教育支援施設の運営状況 (加藤・柏木・大和)
2. 第4回外国語教育セミナー(Moodle & eポータルフォリオ講演会) (ピンテール)
3. 出張報告書
  - 3-1 三重大学 (加藤)
  - 3-2 文教セミナー2011「iPad×教育=!?～iPadを教育にこう使う!～」 (柏木)
  - 3-3 熊本大学(柏木)
  - 3-4 Moodle Moot (ピンテール)
4. ハブ室の活動状況, 利用者統計, およびアンケート結果(中井)
5. CALL 教室の活動状況, 利用者統計, CALL 編集室およびアンケート結果(田中)
6. マルチメディア・スタジオ(D409)利用状況 (中井)
7. 2011 年度購入品一覧(中井・田中)

## 1. 外国語教育支援施設の運営状況

### CALL 教室 (加藤・柏木)

本年度より, ピンテール准教授を加え, 教員4名, 補佐員2名の体制となった。また, 2012 年 1 月より, 丸山補佐員に代わり, 田中補佐員が CALL 編集室(D501)に常駐することになった。

CALL 教室については下記のように, H22 年度より CALL 教室 11 室を整備し, マルチメディア環境を活用して個人個人がオーラル面のトレーニングも可能な環境を整え, 英語では 1 年生向けのオーラル I・II 科目を原則として CALL 教室で行っている。

<sup>1</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター教授 masakato@kobe-u.ac.jp

<sup>2</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター教授 kasiwagi@kobe-u.ac.jp

<sup>3</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター准教授 yamato@port.kobe-u.ac.jp

<sup>4</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター准教授 g-pinter@pearl.kobe-u.ac.jp

<sup>5</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター研究支援推進員 nakai@solac.kobe-u.ac.jp

<sup>6</sup> 神戸大学国際コミュニケーションセンター事務補佐員 call-office@solac.kobe-u.ac.jp

表 1 CALL 教室の整備状況

年 度	整 備 状 況	備 考
平成 5 年度	LL 教室2室(60 台×2室)	ビクター製
平成 10 年度	LL 教室3室(60 台×3室)	ソニー製
平成 15 年度	CALL 教室1室(F201 PC 端末 40 台×1 室)	学内経費 Internet Navigware 導入
平成 16 年度	CALL 教室1室(F202 PC 端末 52 台×1 室, F201 に 8 台増設)	学内経費 NetAcademy 導入 CALL 授業システムなし 支援職員1 名
平成 17 年度	整備なし	支援職員 1 名
平成 18 年度	CALL 教室1室(D417 PC 端末 48 台×1 室) バーチャルスタジオ室1室(D423, HD ビデオカメラ, およびノンリニア編集装置一式)	特別教育研究経費 ノートパソコン NetAcademy2 導入 支援職員 2 名
平成 19 年度	CALL 教室2室(B206A, 206B PC 端末 48 台×2 室)	特別教育研究経費 CaLabo 導入 支援職員 3 名
平成 20 年度	CALL 教室1室(D416 PC 端末 48 台×1 室)	特別教育研究経費 CaLabo 導入 NetAcademy2 に中国語ソフト追加 OneCampus 導入(独仏語ソフト) 支援職員 3 名
平成 21 年度	CALL 教室7室整備(48 台×7 室の新設) および既存 4 室の移動 (LL 教室は廃止)	支援職員 2 名(うち 1 名は LL 教室より配 置転換)
平成 22 年度	CALL 教室 11 室体制で運営開始(D405, 406, 503, 504, 505, 506, 509, 510, 511, 512, 615)	支援職員 2 名
平成 23 年度	CALL 教室 11 室体制 老朽化に伴い D503 室の更新を検討	支援職員 2 名

このように、CALL 教室はカリキュラム面でも必須となり、外国語授業リソースの統合的な管理運営体制を継続的に維持確立することが必要不可欠となっている。そのため老朽化により教育環境が低下することのないよう年次計画に基づき設備更新を行う必要があり、年次的な更新計画を策定してきている。H23 年度は、D503 室に対する更新計画を検討している。

### ランゲージ・ハブ室 (D408) (加藤)

本年度の常駐体制は以下の通りである。

表 2 ハブ TA 配置表

前期	月	火	水	木	金
11:40-13:10	LeeJay(中英)	Thomas(英)	Mathias(西英)	Giyeon(英韓)	Martin(英)
13:20-14:50	Christina(英)	Florian(独英)	Veronika(英)	Anju(独英)	
15:30-17:00	James(英)	Adriana(英)	Jonathan(英)	Jeje(英)	Andrew(英)

後期	月	火	水	木	金
11:40-13:10	Lennart(独英)	Honor (英)	Rodrigo(英西)	Veronika(英) Christina(英)	Veronica(英)
13:20-14:50	LeeJay(中英)	Anju(独英)	Francisco(英)	Laurie(英)	Joshua(英)
15:30-17:00	Michael(英)	Moritz(独英)	Anna(露英)	Gareth(英)	Mustafa(英)

TA の採用にあたってはメディア部門全教員およびセンター長による面接を行った上、オリエンテーションの参加を義務付け、スピーキング指導に対するガイダンスを行うとともに、ハラスメント防止に関する啓蒙活動をあわせて実施している。また、毎回の指導内容および感想を備え付けのノートに記入させ、前期後期終了時には、活動に関する振り返りおよび、これからの活動に対する意見などを記したレポートの提出を義務付けるなど、ハブ室活動の実質化を高める方策を取っている。

#### 語学演習教室(D404) (加藤・柏木)

D404 室はペアやグループ学習用の語学演習教室として整備した。これにより、この部屋を授業で利用した教員からも、学生の相互作用を誘発しやすいとのフィードバックを得た。D404 室については、全教室に整備された無線 LAN 環境を利用したインターネット教材の活用や、ネット上での共同作業を行うため、iPad に代表されるタブレット型端末の導入を検討している。ペアやグループ活動、タスク解決型の教授スタイルをより効率的に行うためにこうしたタイプの教室環境は候補の1つと考えられる。

#### ハブニュース (大和)

SOLAC メールマガジン「ハブニュース」は、SOLAC の活動、ハブ室や CALL の案内などをメールでお知らせする登録制のメールマガジンである。神戸大学の教職員、学生、学外の外国語教育関係者や一般の方々に SOLAC の活動や行事案内などを行っている。登録は、SOLAC のホームページにてメールアドレスを入力する、あるいは SOLAC 構成員に連絡することで行うことができる。2012 年 2 月 6 日現在で、登録件数は 495 件となっている。

2011 年度は、前期にはハブニュース第 49 号を配信した。新任教員の挨拶や KALCS インストラクターや補佐員の紹介などを掲載した。

また、2010 年度後期より配信を開始した週刊のメールマガジン「ハブニュース nano」については、2 月 6 日現在 21 号～60 号を数えることとなった。主な内容は、事務補佐員による CALL 教室や HUB 室の様子の報告・告知、KALCS の活動報告・告知や、「外国語教育セミナー」といった SOLAC 主催の行事などの案内・報告、編集後記、であった。また、2 月 22 日のカンタベリー地震、3 月 11 日の東日本大震災以降、各種震災に関する情報や神戸大学の震災への対応なども記事として掲載するようにしている。

これまでも、「SOLAC の活動状況がよく分かってよい」、「教員の言語教育への情熱が伝わった」、といった読者の評価を得ていたが、週刊の nano を配信していることできめの細かい情報発信ができていると思われる。メールマガジンによって、KALCS への申込みや HUB 室への来訪につながった事例もあったようであり、また、外国語教育セミナーへの参加にもつながったこともあるようである。このように、本メールマガジンは、ホームページや広報誌等の情報を補助する一定の役割を果たしているものと考えている。

## 2. Moodle & eポートフォリオ講演会（ピンテール）

本年度、メディア研究部門は国際コミュニケーションセンターの教育研究プロジェクト「Moodleを活用した統合的学習環境の構築」を行った。本プロジェクトの目的は外国語授業や授業外でLMS (Learning Management System) 環境を本格的に構築運用する可能性を検討するため、他大学のLMS活用状況を視察するとともに、100～200人程度の同時アクセスを実現するLMS環境を、Moodleを用いて構築し、システム上スムーズに運用できる環境および体制を整えることであり、その一環として下記の講演会を企画・実施した。また、3節で報告するセミナー・学会への参加および大学訪問を実施した。

### ■発表の概要

イベント	神戸大学国際コミュニケーションセンター第4回 外国語教育セミナー
講師	森尾吉成先生
題目	「三重大学における e-Learning 環境の構築と課題 Moodle と e ポートフォリオを中心に」
日時	2012年1月31日、午後4時～6時
場所	神戸大学鶴甲第一キャンパス D棟512号室

### ■講演要旨

森尾先生による、パワーポイントとオンラインデモを駆使しての、和やかな雰囲気で開催された興味深い講義では、三重大学の e ポートフォリオについて様々な情報が得られた。


三重大学では、2005年からLMSとしてMoodleを全面的に採用し、毎年1400を超えるコースでの利用が行われている。e ポートフォリオは2009年から全学で使用することになり、授業の情報の公開はもちろん、メーリングリスト、学生同士の議論、学生しかアクセスできない学習ログなどといった贅沢な機能を提供する学習環境として活用されている。

ほとんどの教員が利用し、すべての学生が登録されているeポートフォリオを提供する4台のサーバーは最大1400同時アクセスにも対応することができる。ログインの一部は教務システムと統一しているが、成績管理は統一せず、データの交換は手動で行っている。

全体的に学生とのコミュニケーションを促し、教員へのフィードバックも円滑にする e ポートフォリオは、大変人気があり、卒業後も使えるように開放されている。

神戸大学国際コミュニケーションセンター  
第4回 外国語教育セミナー

# 講演会



演題  
三重大学におけるe-Learning環境の  
構築と課題: Moodle とeポートフォリオを中心に

講師  
森尾吉成 先生

三重大学  
高等教育創造開発センター・教育情報システム部門  
大学院生物資源学研究所准教授

日時: 平成24年1月31日(火) 午後4時～5時50分  
場所: 神戸大学鶴甲第一キャンパス D棟D512号室

プログラム:  
16:00 開会/センター長あいさつ ・参加費無料  
16:05 講師紹介 ・どなたでも参加いただけます。  
16:10 講演 (質疑応答) ・問合せ  
17:45 閉会 メディア研究部門 加藤雅之  
(masakato@kobe-u.ac.jp)

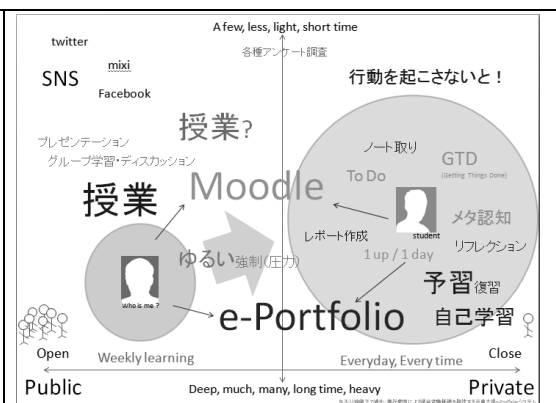
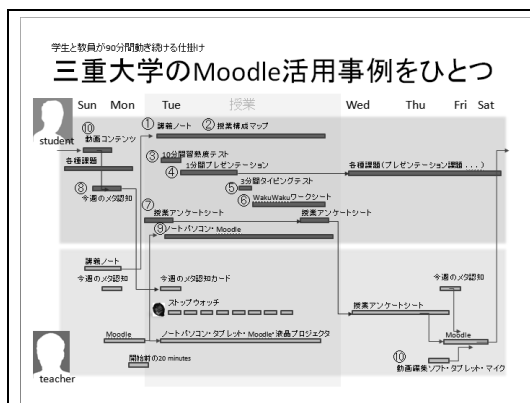
SOLAC 神戸大学国際コミュニケーションセンター  
School of Language and Communication, Kobe University, Japan  
外国語学系 英語学リポート  
<http://www.solac.kobe-u.ac.jp>

■アンケート結果(回答数17)

Q1 発表をどこで知りましたか。	
メーリングリスト(asagao)	5
学内のチラシ	3
センター長よりのメール	2
Q2 現在Moodle/ePortfolio 使用していますか	
使用している	3
Moodle のみ	3
E ポートフォリオのみ	1
使用していません	4

Q3 もしMoodle/ePortfolio 使用していない場合、将来使用しようと思えますか	
はい	5
いいえ	3

Q4 感想をご自由に意見を書いて下さい	
▶大変参考になりました。遠方から来たかきがありました。 ▶ポートフォリオの活用については多くの大学で悩んでいると思うのでこういう意見交換の場は、助かります。 ▶とても面白かったです。又 moodle を始めようと思いました。 ▶ePortfolio をどのように使えば良いか、いまだにその方向を考えていますが難しいです。 ▶今日は学生の motivation をどう上げるか、ということについてあらためて考える機会となりました。 ▶面白かったです。もっとみんなで議論できる時間が有るとよいと思います。 ▶Moodle や ePortfolio を学生にいかに関活用してもらえるようにするか工夫されているところを学ぶことができ、興味深かったです。 ▶講義をするまでのヒントをたくさん貰いました。 ▶それを自分の領域でどう応用するか考えてみたいと思います。 ▶毎日の成果をためていく Portfolio は個人的な生活の中で作ってみようと思う。 ▶ツイッターもフェイスブックもやったことがないので、よくわからなかったと思います。 ▶ちょっと試してみます。 ▶ePortfolio については興味が有りましたが、よくわからなくなりました。Moodle で十分かもしれません。このようなツールを上手く使うための背景(学生の気合)も含めてお話がうかがえたのは良かったと思います。 ▶ePortfolio はよいとおもいました。しかし、ケータイからアクセスできるとさらによいと思いました。PC からネットにアクセスすることが重荷となっている学生もいるようです。今後そのような学生が増えるのではないかと考えています。 ▶Moodle はアクセスする時に時間がかかるので(やや)不便を感じています。	



### 3. 出張報告書

#### 3-1 三重大学 (加藤)

三重大学は2005年よりMoodleを活用したLMS(Learning Management System)の導入を試験的に開始し、2006年より本格運用を行っている。2011年度 Moodle には、共通教育を含む全学部の1438コースが登録されている。今回の出張ではこのシステムを中心になって立ち上げた奥村晴彦教育学部教授を訪問し、システムの現状について話を伺ってきた。

日時:2011年8月30日(火)午後2時~3時半

場所:三重大学教育学部技術棟

出席者: 奥村晴彦 教授(教育学部, 情報担当学長補佐, 高等教育創造開発センター)

森尾吉成 准教授(大学院生物資源研究科)

杉崎鉦司 准教授(人文学部)

(導入まで)

・Moodle 導入のきっかけ

2004年赴任ののち、学長補佐となり、LMS の導入検討を命じられる。

WebCT, Blackboard などとの比較の末、Moodle を選択

(現状)

・ハードウェア構成

Web サーバとデータベースサーバ

Web サーバは440G程度、データサーバは6T(うち1.1T使用中)

同時アクセス、100人でも問題なく(ただし、授業内での利用は少ない)

・統計(コース数, 参加数等)

1438コース

年500万View

・運営体制

高等教育創造開発センター内、教育情報システム部門が所掌(奥村部門長)

教育情報システム部門では、学習支援や授業支援を進める e-learning システムの構築や、三重大学の教育活動全体を網羅するデータベースの設計・構築など、教育改善に生かす戦略的な教育システムを構築しています。

・保守体制

データ交換(前年度のデータ保存等)、モジュール追加、バージョンアップへの対応等はすべて上記部門で対応(というより、奥村、森尾先生が対応)。特定の予算はなく、予算が使える場合には業者への依頼も可能

・学生の登録方法

三重大学ポータルサイト(下記参照)はすべてLDAPによって一元管理されている。

Moodle への登録は教員から学生に「登録キー」を伝えるだけ。

・教員へのサポート体制

年2回の講習会

マニュアル (<https://portal.mie-u.ac.jp/moodle11/login/index.php> ゲストログイン可能) によるサポート(秀逸)

FD 活動

・学生へのサポート体制

とくになし(学生の方がよく知っている！)

・運営予算

とくになし

・授業との関連

授業の中というよりは、授業外で課題の配布や宿題の回収などに使う先生が多い。

(その他)

・Moodle のポートフォリオ的利用

(<http://portal.mie-u.ac.jp/moodle11/mod/resource/view.php?id=52239>)

過去の Moodle の閲覧可能

その他に、e ポートフォリオのポータルを開設

・英語(外国語)科目としての取り組み

特に組織的なものはない

1年で6単位

リーディング 2

コミュニケーション 2

TOIEC 2(NetAcademy2と連動、自習したものをテスト)

TOEIC-IP 全員受験(1年の4月と1月)

習熟度別クラス編成(10段階)

### 3-2 文教セミナー2011「iPad×教育=!?～iPadを教育にこう使う!～」 (柏木)

2011年8月5日に参加した文教セミナー2011「iPad×教育=!?～iPadを教育にこう使う!～(三谷商事)」について報告する。今回のセミナーでは、本プロジェクトにおける Learning Management System(以下、LMS)の応用展開を考え、LMSとiPadをはじめとする情報端末との連携、大学におけるeラーニングの新展開の動向、産業界および世界のeラーニングを取り巻く動向を探った。セミナーの各プログラムの概要を以下に報告する。

(1)「テレビ番組から電子図鑑を創る」

関西学院大学総合政策学部教授・サイエンス映像研究センター長 畑祥雄 氏

(2)「iPadはCALL教室を駆逐するか～外国語授業でのiPad活用事例」

大阪大学大学教育実践センター教授 岩居弘樹 氏



(3)「iPad を活用した大谷大学デジタルキャンパス構築と eラーニング」

大谷大学文学部人文情報学科主任教授 池田佳和 氏

(4)「弊社で実施した iPad 負荷テスト内容を一挙公開！」

三谷商事株式会社情報ソリューション事業部関西支店文教テクニカルソリューション課

(1)「テレビ番組から電子図鑑を創る」について

関西学院大学におけるテレビ番組から電子図鑑を創るプロジェクトについて報告がなされた。以下に概略を示す。

デジタルコンテンツを取り巻く状況

(1)アニメ産業の衰退

アニメの制作拠点(「千と千尋の神隠し」以降) 日本→韓国→上海→大連へ

(2)コンテンツ産業の状況

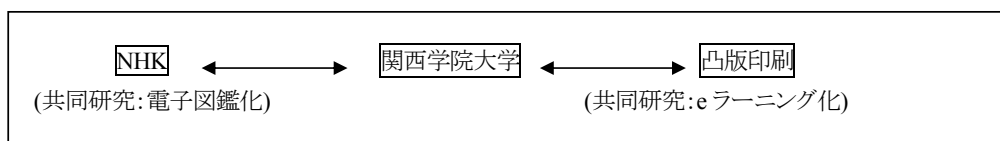
2010 年:電子出版元年

日本の放送業界:コンテンツ作り(NHK は独自で、民放は多くが外注)

出版・印刷業界:新しい産業を立ち上げるだけの体力がない

関西学院大学の取り組み

NHK と凸版印刷と共同研究の形で、NHK の科学番組を電子図鑑化する。併せて Moodle と連動させ、教員用にカリキュラムデータベース、成績管理、問題の作成などを行えるようにする。



- ・対象番組「大科学実験」:1 本 10 分程度(計 26 本)の番組
- ・「大科学実験」:共同制作(資金出資:アルジャジーラ子どもチャンネル)

これからのコンテンツ制作

世界がコンテンツを買い始めており、日本においても国内でデジタル出版などを始めなければ、海外にコンテンツが流れてしまう(例:海外が NHK のコンテンツを買い始めている)。これを踏まえて、コンテンツ産業はグローバルな産業構造を持っている必要がある。

また、今後、コンテンツ作りが期待されるものとして以下が挙げられる。

・世界が求めている科学教育

理科離れを食い止めるために、教員の理科授業力をサポートするコンテンツ作りが求められる。教員が理科離れすると、子供も理科離れの状態になる。また、理科を専門とする教員が、理科の授業を必ずしも担当しているわけではない現状を考慮する必要がある。

・国境なき教育団(cf.国境なき医師団)の提案

21 世紀に日本が世界に担える主たる役割として教育が挙げられる。但し、日本の教員が直接現地の教壇に立つのではなく、IT 技術や機材、コンテンツを通してそれぞれの国の教員を支援し、世界の教育の拠点

となることを目指す提案がなされた。特に、日本の医療や教育のノウハウは優れたものがあり、世界から求められている。

※参考 URL <http://fm797thinktank2.seesaa.net/archives/201108-1.html>

(2012年2月1日時点のものによる)

上記を実現するために、関連する人材の育成が必要となる。人材の育成については、コンテンツ作りだけでなく、プロジェクト全体をマネジメントする(テーマやシナリオ作り、映像撮影・編集、音声やCG作り等)人材の育成が求められている。関西学院大学総合政策学部においても、5人1組で放送番組を制作させる、それに関連する論文作成を行わせる等、学生を鍛える充実した教育課程が整備されている。今後は、医療や震災(防災)をテーマにした電子図鑑作りへ取り組むことも考えられている。

## (2)「iPad は CALL 教室を駆逐するか〜外国語授業での iPad 活用事例」について

大阪大学 1 年生を対象としたドイツ語授業における iPad 導入(iPad2:14台, iPad:11台, iPodtouch:2台)活用事例の報告がなされた。以下に主な活用事例を示す。

### 事例①:学生同士でビデオ撮影

シナリオを作り2人でスキット、特定の場所を地図で案内し、学生同士でビデオ撮影。

↓

吹き出しにしてセリフを付け、Youtube にアップ

※授業外学習として、Moodle に関連する問題や音声をアップし自習利用

課題:

- ・iPad2 のウェブカメラで撮影した際、学生からは「ズームができない」「マイクが良くない」「重い」「撮影時に持ちにくい」「すべる」などの声があった。
- ・バッテリーは3時間連続使用で50~60%使用。連続して授業で使用する場合は電源確保が必要。

### 事例②: Digital Storytelling

場所と方向の前置詞表現やドイツ旅行報告等のテーマで、写真と音声によりデジタル紙芝居(スライドショー)を作成する。

使用アプリ:SonicPics, StripDesigner(文字を入れたい場合)

課題:使用中にアプリがおちる場合があり、その際の対応が必要。

### 事例③:発音を学ぶ

iPad で文章や単語の発音を学ぶ。

使用アプリ:Speak it(読み上げ合成音アプリ)

Dragon Dictation(音声認識で発音した言葉が文字になる)

※Speak it で作成した音声を Dragon Dictation に聞かせて認識させると、殆ど全て認識できたとのコメントがあり、合成音の精度の向上がうかがえた。

### (3)「iPad を活用した大谷大学デジタルキャンパス構築と eラーニング」について

2011 年度より大谷大学文学部人文情報学科の約 480 名に iPad2 を無償配布し、運用した結果について報告がなされた。以下に概略を示す。

人文情報学科では、学生の ICT スキル習得のモチベーションアップを目指し、iPad2 を 2011 年新学期に無償配布し、授業支援・意欲支援・キャリア支援・デジタルミュージアム等に活用された。授業では、ゼミ(3~4 年生)、専門科目、新入生専門導入科目に導入された。併せて、BeeDance という LMS が、出欠管理、小テスト、即時フィードバックのために導入された。iPad2 のセットアップについては、ICT 教育の一環として学生自身が行った。基本アプリは大学側で購入したが、限度以上の場合や必要に応じて学生がアプリを購入した。これは通常の授業におけるテキスト購入などと同等と考えられるためである。また、紛失・破損は自己責任であった。

運用については、教室と学内主要スペースに Wi-Fi を設備し、学内ルータ・サーバと LMS を導入使用した。アクセスポイント(以下、AP)3 台、iPad2 が 150 台で問題なく接続運用できた。但し、iPad2 では、ブラウザ以外はプロキシに対応しないため、プロキシサーバによる通信ログ収集は、別形式でログを取るよう設定する必要があった。

学生へのアンケートの結果、iPad2 配布前の事前の期待度は高かったが、iPad2 配布後、期待度は個人によりばらつきがあった。運用については、継続運用を考慮して iCloud 体制が良いのではないかと考えた。聞かれた。

### (4)「弊社で実施した iPad 負荷テスト内容を一挙公開！」について

教育現場での iPad 利用を想定して、iPad40 台規模で 3 回にわたり実施された負荷テストについて報告があった。以下に主な結果を示す。

- ・負荷テストの結果、1 台の AP に対して、iPad10~20 台、ファイルサイズは 3~5M が上限。1 台の AP に対する過度な iPad の同時接続は避ける。
- ・AP については、2.4GHz 帯より 5GHz 帯の使用が良かった。
- ・各社の AP について、AP1 台での運用時は、Buffalo や Cisco Systems がスムーズに運用できた。一方、AP2 台+コントローラの構成では、Meru Networks がスムーズに運用できた。

※あくまで今回実施した結果であり、常に同様の運用結果になるとは限らない。

これらの結果より、iPad 導入については、以下を十分考慮する必要があると考えられる。

- ・iPad の台数に応じて、必要なアクセスポイントの台数を準備する。
- ・iPad における通信ログを収集する仕組みを整える。
- ・授業で使用する場合の電源確保が必要。連続使用がない場合は充電器による充電が可能と考えられるが、連続使用の場合、それだけでは対応できない場合も考えられる。教室に電源コンセントを埋め込んだ机を準備する。あるいは近年、携帯電話を置くだけで充電可能なくみも考案されているため、教室の机の上に置くだけで充電可能な充電器を備えることも 1 方法と考える。

## 3-2 熊本大学 (柏木)

本視察については、国際コミュニケーションセンター研究・教育プロジェクト基金とは別枠予算により視察したが、LMS に関する内容も含まれていたため、関連する部分について、以下報告する。

### (1)LMS に関する熊本大学の現状

熊本大学では、現在、全学に対応する LMS として WebCT を使用している。学生・授業データは、大学既存の履修・成績管理システム(Soseki)から WebCT へ流し込むことが可能である。利用方法については、e ラーニング推進機構で週 1 回講習会の日を設け、希望者がいる場合は随時対応するという形をとっている。今後の方向として、WebCT のバージョンアップに伴うシステム機能の変更やライセンス料の点から、Moodle への移行が考えられている。しかし、移行するにあたっては、現在 WebCT で可能な同時アクセス 400 人程度といった運営状況を継続することや、WebCT 上のコンテンツを全て Moodle へ移行することも考慮する必要がある、検討していく課題があるとのことであった。

Moodle については、現時点では個人教員レベルでサーバを立ち上げ、10 人程度の教員が使用している状況であったが、QR コード導入により、学生 1 人 1 人に QR コードを作り、学生の答案用紙をスキャナで読み込み PDF 可する等、QR コードによる保存管理が進められており、Moodle の利用可能性を広げる取り組みが進められていた。

全体的に、予算面や人的スタッフ面での全学的な支援を受けて運用しやすいシステム構築に向けて改善されている状況がうかがえた。

※参考 URL

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/2a-201-03.pdf>

(2012 年 2 月 1 日時点のものによる)

### (2) 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻での LMS 利用状況

教授システム学専攻は、平成 18 年度に熊本大学大学院社会文化科学研究科の独立専攻として設置され、e ラーニングテクノロジーを活用した遠隔学習により、自宅や職場で働きながら学位(修士・博士)を取得することが可能な研究科である。ここでは、WebCT に授業コンテンツが置かれている他、LMS 関連の実習授業では、受講者が Moodle 上でコンテンツ作成を行う。卒業生の中には、身に付けたスキルにより Moodle 関連のコンテンツ制作を請け負う等、卒業後のキャリアにつながる事例も聞かれた。

※参考 URL

<http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~idportal/wp-content/uploads/miyazaki.pdf>

(2012 年 2 月 1 日時点のものによる)

### (3)e ポートフォリオの利用状況

上記教授システム学専攻では、LMS に加えて SakaiOSP という e ポートフォリオが導入されている。SakaiOSP の特徴の1つとしてはマトリックス機能があり、コンピテンシーとレベル対応一覧表が作成可能であるが、この機能を利用して、学習した結果が学士課程教育などで期待される学習成果とどのように結びつくのか、その対応関係の表示を目指した取り組みも進められている。また、個人教員ベース(研究室レベル)で、

大学院生の指導に Mahara という e ポートフォリオの利用が試みられている。Mahara はデータベース面において注意が必要なものの(Mahara は PostgreSQL を, Moodle は MySQL を使用することが多い), Moodle と親和性があり, Moodle と Mahara の連携可能性は検討する対象と考えられる。

※参考 URL

[http://bugs.ja-sakai.org/confluence/download/attachments/5308418/JaSakaiConf4\\_Miyazaki.pdf?version=1](http://bugs.ja-sakai.org/confluence/download/attachments/5308418/JaSakaiConf4_Miyazaki.pdf?version=1)

<http://mdsite.f-leccs.jp/Mediasite/Viewer/?peid=a02fcc9d8c9f4afd9d64611821f1cfe0>

(2012年2月1日時点のものによる)

### 3-4 Moodle Moot (ピンテール)

Moodle Moot は Moodle に関心のある教育者と教育ソフトウェアの開発に関わるプログラマーを対象に、年一回行われる大規模なイベントである。2012年の Moodle Moot は三重大学で開催され、2月22日・23日と二日に渡るイベントには3つの基調講演と50本以上の研究発表行われ、200人ほどの参加者があった。

(Moodle Moot Japan 2012 in Mie: <http://moodlejapan.org/home/course/view.php?id=51>)

(2012年2月22日時点のものによる)

プログラムの内容としては、初心者向けのワークショップをはじめ、Moodle を効果的に活用するノウハウを解説する講演、Moodle の機能を拡張するプラグイン開発の報告、導入成功事例・失敗事例の報告まで、テーマは多岐にわたっていた。Moodle のカスタマイズ化やプラグイン開発を手掛ける企業によるプレゼンテーションもいくつかあった。イベントのハイライトでもある三つ目の基調講演(バーチャル)は Moodle の開発者、Martin Dougiamas 氏のスピーチであった。

テーマも多様性に富んでおり、全ての発表の概要を紹介するのは難しいが、人気がある発表テーマがいくつかあった。例えば、音声と動画を簡単に録音・録画できるようにするプラグイン開発についての発表が比較的多かった。録音・録画の機能を求める声が多くあるにもかかわらず、Moodle にはそうした機能がデフォルトで提供されていないため、第三者が開発するしかないのが現状である。Moodle はブラウザを利用したアプリケーションだが、ブラウザには元々録音・録画機能がなく、そうした機能を追加するには以下の方法に拠らざるを得ない。一つは、Flash アプリで音や動画を撮って、メディアサーバ経由で Moodle にアップロードする方法であり、もう一つは、ブラウザから Java のアプリを起動させて、直接 Moodle にデータを送る方法である。前者の方が技術的に難しいにもかかわらず、前者の仕組みをとる発表者の方が多かった。Moodle に直接音声をアップロードできる iPhone アプリも紹介された。

Moodle Moot は僅か二日間の大会であるが、情報量が大量で、関連分野の研究者との意見交換の機会も多くあり、開発者やヘビーユーザーはもとより、一般 Moodler にとっても強く勧められるイベントである。

## 4. ハブ室の活動状況, 利用者統計, およびアンケート結果 (中井)

### ハブ室の活動状況

ハブ室は D408 にあり、開室時間は 10:30~17:00 である。しかし、今年度はハブ・ライブラリーの利用者を考慮して 9:30 頃から部屋を開けていた。ネイティブのティーチング・アシスタント(TA)が、11:40~13:10, 13:20~14:50, 15:30~17:00 のタイムテーブルの内、1時間半交代で常駐している。TA の使用言語は英語が

中心で、その他には中国語、韓国語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語話者もいる。部屋に利用簿を置き、ハブ室にきた学生に自主的に利用簿を記入してもらっている。

前期は4月11日～7月29日、後期は10月11～2月10日(冬期休業は12月26日～1月9日)に開室した。TAの常駐期間は4月18日～7月22日、10月17日～1月27日であった。ハブ・ライブラリー利用者のために、TAがいない期間も開室した。

今年度は年間を通して例年と比較しても利用者が多かったようである(表1, グラフ1-3)。大型連休の後、6月～7月に向けて順調に利用者が伸びた。例年は前期、後期とも初旬は利用者が少なめだが、今年はスケジュールがスムーズに決定したこと、またTAの欠勤が少なかったことによって安定した利用者数を得られたようである。特に後期は前期から引き続き利用している学生が多くいたこともあり、どの時間帯にも多くの学生でにぎわっていた。期末にアンケートを実施したところ、TAの数を増やしてほしいといったコメントも寄せられている。

ハブ・ライブラリーの貸出は、Oxford University Press, Cambridge University Press, Heinemann ELT, Macmillan Classics, Penguin Readers, 以上5つの出版の本が対象であり、貸出期限は1週間、1度に3冊まで貸し出せる。貸出時に、貸出票に学籍番号、氏名、借りる本のタイトルとその登録番号、貸出日を、返却時に返却日を自主的に記入してもらった。前期は694冊、後期は366冊の貸し出しがあった。オーラルやリーディングの授業でハブ・ライブラリーの課題を出していた教員がいたこともあり、多くの貸出があった。なお、この図書利用のみの学生のほとんどは利用簿を記入していない場合が多い。そのため図書利用の学生を含めると、利用者数はもっと多いと思われる。

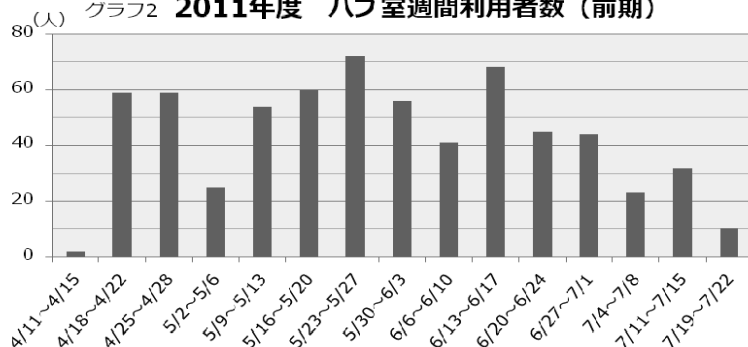
表1 2011年度 ハブ室月間利用者統計

	計	院	医	海	営	済	工	国	農	発	文	法	理	他
4月	120	4	4	0	3	13	14	38	1	18	6	10	8	1
5月	267	33	1	3	7	35	32	73	6	23	7	21	12	14
6月	198	35	2	0	3	18	22	50	3	17	3	13	14	18
7月	65	11	2	0	5	7	11	14	0	5	0	5	2	3
10月	167	21	1	3	7	6	25	34	0	32	8	17	4	9
11月	302	27	0	7	19	19	41	87	3	33	24	27	3	12
12月	153	7	0	6	1	8	27	49	5	11	11	17	5	6
1月	64	0	0	5	2	2	20	9	3	9	3	11	0	0
計	1336	138	10	24	47	108	192	354	21	148	62	121	48	63

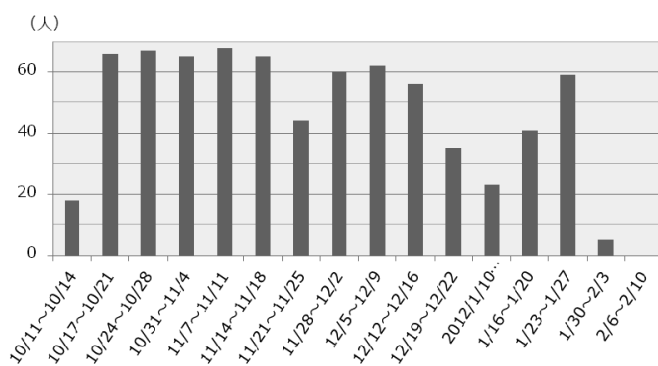
グラフ1 2011年度 ハブ室月間利用者数



グラフ2 2011年度 ハブ室週間利用者数 (前期)



グラフ3 2011年度 ハブ室週間利用者数 (後期)



## 5. CALL 教室の活動状況, 利用者統計, CALL 編集室およびアンケート結果 (田中)

### CALL 室の活動状況

2011 年度の CALL 室は 11 部屋(D405, D406, D503, D504, D505, D506, D509, D510, D511, D512, D615)あり, D503(ノートパソコン教室)を除き, 全てシステムがチエルの CaLabo EX である。各部屋とも教員 PC を 1 台, 学生 PC を 48 台配置している。利用期間は, 前期 4 月 11 日~8 月 12 日, 後期 9 月 26 日~12

月 22 日と冬季休業をはさんで 1 月 10 日～2 月 22 日である。

時間割は表 1、授業利用の時間総数は表 2 のとおりである。時間割に関しては、英語オーラル I、II に関しては全て CALL 室を割り当てた。担当教員が希望すれば通常教室(コンピューターのない講義室)、に変更する事としている。残りは CALL 室を利用希望する教員を募り、教室を割り当てた。希望が多い時間は抽選とした。特に月、水は英語オーラル I、II の授業でほとんど教室が埋まるため、さらに英語オーラル III や英語リーディングの利用希望が出ると、抽選となる事も少なくなかった。

自習開放は 10:30～17:00 で、主に D505 を開放していた。D505 が授業で使用出来ないときは D503 を開放していた。D505 を開放していた理由は、自習でロシア語の E-Learning 教材(D505, 506 で使用可)を使えるようにする為である。自習利用の学生には入室時に利用簿に記入してもらっている。それを元にとった統計(表 3, グラフ 1-4)は 4 月から 2 月までのものである。

今年度前期の自習室は非常に盛況であった。特に今年は大型連休の前から利用者が多く、休み明けの 5 月にかけてが、ピークであった。その後 6 月になると少し減ったが、7 月のテスト前になると、課題をする学生が多く来た。後期は前期に比べて格段に利用者数が減った。ただ、時折見回ると学生がいるにも関わらず、利用簿の名前が少ないということがよくあった。前期の利用人数には及ばないまでも実際の利用者数はもう少し多いと思われる。昨年は慌しく、前期に外国語学習教材説明のプリントの配布と CALL 室の使用説明会を行うことが出来なかった。その事もあり、今年は 5～6 月にかけてプリントの配布をし、説明会を数回行った。説明会の参加者は少なかったが、教材の問い合わせは授業開始直後からあった。前期の利用者数の増加は、その事が一因であるとも思える。

学部別にみると、国際文化学部の利用が一番多く、次いで経済学部である。そして今年度は特に海事科学部の利用者が多かった。



CALL 時間割・授業時間数・利用者統計

表 1 2011 年度 CALL 室時間割表

		前期										
		D405	D406	D503	D504	D505	D506	D509	D510	D511	D512	D615
月曜	1					Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	
	2			自習開放	大学院M	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I
	3	Oral I	専門演習A	自習開放	Oral I	Oral I	Oral I		Oral I	Oral I		Oral I
	4	Oral III	Oral III	自習開放	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I
	5											コンテンツ論
火曜	1									仏語 I A		仏語
	2					自習開放		独語	独語 I A	仏語 I A		仏語
	3	独語 I A	仏語 I A		アドバンスト	自習開放	ロシア語 I B	独語				アドバンスト
	4	独語 I A				自習開放	ロシア語 I B					
	5										外国語教育シ	仏語
水曜	1	Oral III	Oral I		Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	仏語
	2	Oral III	Oral I	自習開放	Oral I	Oral I	Oral I	Oral III	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I
	3	Oral I	Oral I	専門演習B	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral I	Oral III
	4	Oral I	Oral I	自習開放	Oral III	Oral III	Oral I	Oral I	Oral I	Oral III	Oral III	Oral III
	5							独語IVA				仏語
木曜	1		仏語 I A				ロシア語 I B		仏語 I B			仏語
	2					自習開放	ロシア語 I B		仏語 I B	独語 I B		仏語
	3		仏語 III A			自習開放	仏語 I B	独語 III A	翻訳文化形成	独語 I B	仏語 I B	外国語教育コ
	4	独語 IVA				自習開放		独語 III A			仏語 I B	仏語
	5											アカデミック
金曜	1											コンテンツ論
	2					自習開放						システム論
	3					自習開放						
	4					自習開放						
	5											
		後期										
		D405	D406	D503	D504	D505	D506	D509	D510	D511	D512	D615
月曜	1	Oral II				Oral II	Oral II	Oral II	Oral II		Oral II	Oral II
	2	Oral II		自習開放	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II		Oral II	Oral II
	3	Reading II	Oral II	自習開放		Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II
	4	Reading II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II
	5											コンテンツ論
火曜	1							独語	独語 II A	仏語 II A	仏語 II B	仏語
	2					自習開放	ロシア語	独語 III B		仏語 II A	仏語 II B	
	3	独語 II A	仏語 II A			自習開放	ロシア語 II B	独語 II B		アドバンストB	アドバンスト	仏語 II A
	4	独語 II A				自習開放	ロシア語 II B					
	5	独語										仏語 SA
水曜	1	Oral II 特	Oral II		Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	仏語会話 II
	2	Oral II 特	Oral II	自習開放	Oral II		Oral II 特	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II	Oral II
	3	Oral II	Oral II	自習開放	大学院M	Oral II	Oral II	Oral II	外国語演習	Oral II 特	Oral II	Oral II
	4	Oral II	Oral II	自習開放		Oral II		Oral II	Oral II		Oral II	Oral II
	5											仏語
木曜	1		仏語 II A				ロシア語 II B					仏語
	2					自習開放	ロシア語 II B		仏語 II B		独語 II B	仏語
	3	英会話 (上)				自習開放		アドバンストA	仏語 II B	独語 II A	仏語 II B	仏語
	4					自習開放			独語		仏語 II B	仏語
	5	独語 SB										
金曜	1											
	2					自習開放			音声コミュニ			コンテンツ論
	3					自習開放						
	4				TOEFL実習	自習開放						

黒字は共通教育の授業科目  
 赤字は大学院の授業科目  
 緑字は国際文化学部 of 授業科目  
 青字は文学部の授業科目

表 2 2011 年度 CALL 室 週あたりの授業利用時間数

	前期	後期	計
D405	** 9 コマ	* 12 コマ	21 コマ
D406	* 9 コマ	8 コマ	17 コマ
D503	* 1 コマ	* 1 コマ	2 コマ
D504	* 8 コマ	* 6 コマ	14 コマ
D505	8 コマ	7 コマ	15 コマ
D506	13 コマ	12 コマ	25 コマ
D509	12 コマ	13 コマ	25 コマ
D510	12 コマ	* 12 コマ	24 コマ
D511	12 コマ	* 8 コマ	20 コマ
D512	10 コマ	14 コマ	24 コマ
D615	**** 20 コマ	** 17 コマ	37 コマ
計	114 コマ	110 コマ	224 コマ

\* 内 1 コマは学期中 2-3 回の使用

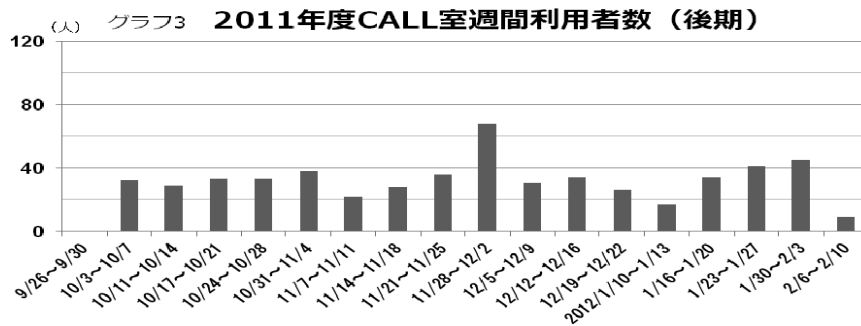
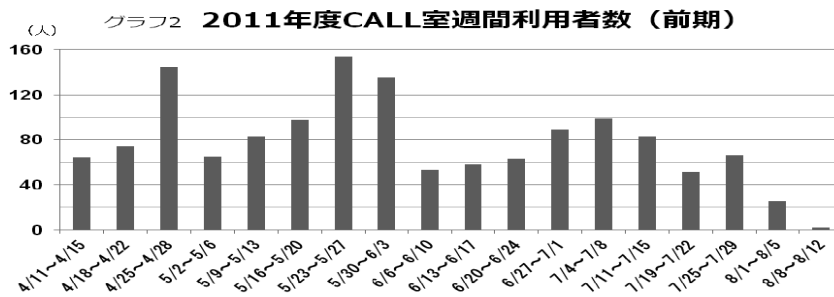
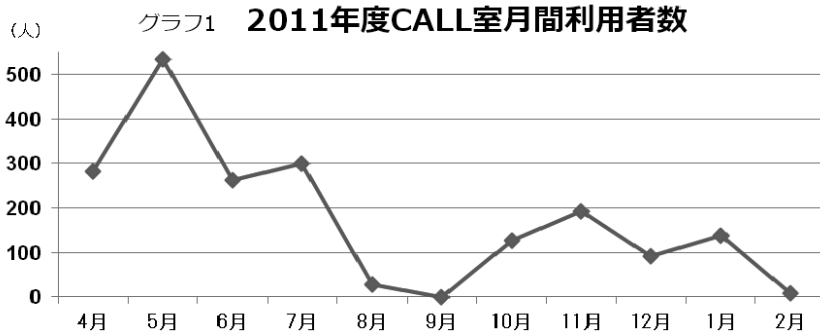
\*\* 内 2 コマは学期中 2-3 回の使用

\*\*\*\* 内 4 コマは学期中 2-3 回の使用

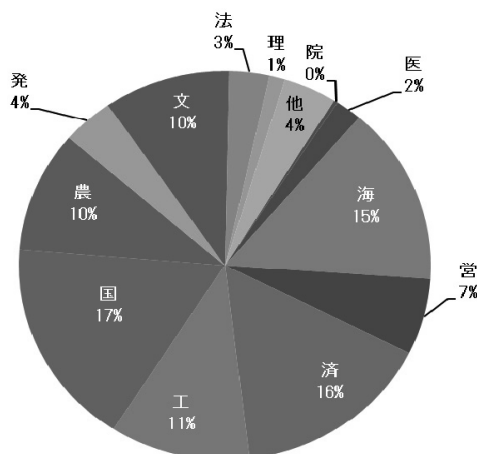
表 3 2011 年度 CALL 室利用者統計

	計	院	医	海	営	済	工	国	農	発	文	法	理	他
4 月	283	3	3	43	22	48	48	26	38	17	11	20	1	3
5 月	534	0	0	105	26	66	75	99	64	14	52	8	7	18
6 月	263	1	0	33	7	58	15	44	32	8	26	5	4	30
7 月	299	0	1	29	16	61	32	56	36	12	25	20	4	7
8 月	27	0	0	4	4	1	6	5	1	2	2	1	1	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	127	0	0	26	18	23	8	19	10	4	14	0	2	3
11 月	192	1	30	27	16	24	19	37	8	1	17	0	2	10
12 月	91	0	6	17	8	12	0	20	4	3	8	0	3	10
1 月	137	1	1	5	6	14	11	30	4	18	40	6	0	1
2 月	9	0	0	2	1	0	2	2	0	0	0	2	0	0
合計	1962	6	41	291	124	307	216	338	197	79	195	62	24	82

2012 年 2 月 10 日現在



グラフ4 2010年度CALL室自習利用状況(所属別)



## CALL 編集室

CALL 編集室(D502)には、外国語教育及びその他の教材(主にAV資料)を備えており、教員や学生を対象に貸し出しが可能である。(CALL 編集室はD501及びD502から成っており、D501には、補佐員が常在し、CALL室の管理や教材の編集などを行う。D502には、教材が置かれており、教材には主にAV資料及び書籍などがある。)

以下は、CALL 編集室(D502)教材リストの内訳である(教材のタイトルは省略)。

表1 言語別教材リスト

分類	英語	仏語	独語	中国語	露語	芸術	伊語	西語
数量	1113	807	576	326	308	175	91	48

教材貸し出しの状況については、前期(2011年4月～9月)に、英語教材が2件、仏語教材が2件、露語関連の教材が1件、独語教材が1件、それぞれ貸し出された。

後期(2011年10月～2012年2月現在)には、英語教材が5件、仏語教材が1件、独語教材が3件、芸術関連の教材が1件、それぞれ貸し出された。

現在、これらの教材の整理を進めている。例えば、カセットテープをCDに複写しておく、或いはVHSをDVDに複写する作業などがある。そして、教材の登録番号の不備や所在不明になっているものなどが多数あるため、教材全体の整理を進め、正確な教材リストを確保しておく必要があると思われる。

上記の教材以外に、CALL 編集室(D501)では、教材としての使用を目的とし、NHK外国語教育番組及びその他の番組の録画・ダビングを行っている。以下は、常時録画・現在ダビングを行っているリストである。

表2 定期録画・ダビング番組リスト

放送日程	タイトル	ジャンル	備考
月～土曜日	おはよう世界	ニュース	DVD(非常勤講師からの依頼)
月曜日	BS 欧州ドキュメンタリー	外国語教育	DVD(非常勤講師からの依頼)
火曜日	NHK テレビで独語	外国語教育	DVD(D502)
水曜日	BS アジアドキュメンタリー	外国語教育	DVD 非常勤講師からの依頼)
木曜日	NHKE テレビ(多言語)	外国語教育	DVD(非常勤講師からの依頼)
土曜日	美の巨人たち	芸術	VHS(国際文化学部教員からの依頼)

上記のリストのうち、NHK 外国語教育番組は CALL 編集室(D502)にて貸し出ししている。その他、教員からの依頼を受け、テレビ番組の録画やダビング、VHSをDVDに或いはDVDをDVDに複製するなどの作業を行っている。後期(2011年10月～2012年2月現在)は次のような依頼を受け、録画・ダビングを行った。

- ・2011年12月:ドキュメンタリー番組の録画・ダビング(VHS及びDVD)、CD→CD/DVD→DVDの複製
- ・2012年1月:ドキュメンタリー番組の録画・ダビング、VHS→DVDの複製
- ・2012年2月:ドキュメンタリー番組の録画・ダビング、VHS→DVDの複製
- ・2012年2月:映画(VHS)のダビング録画、VHS→DVDの複製

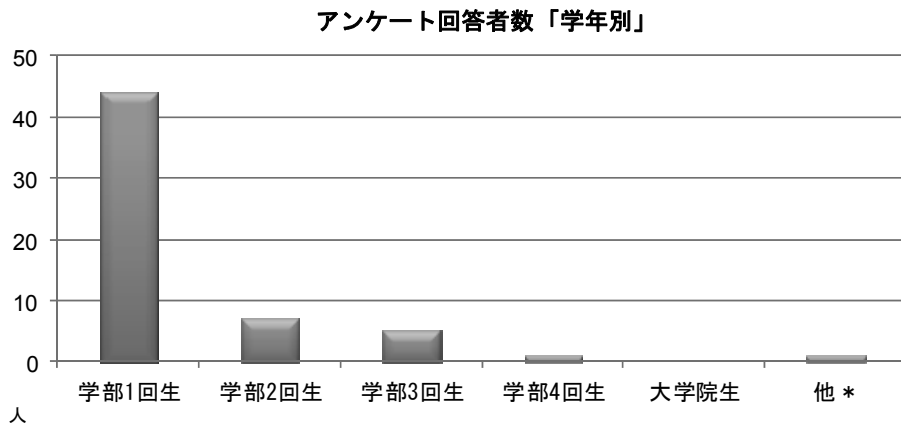
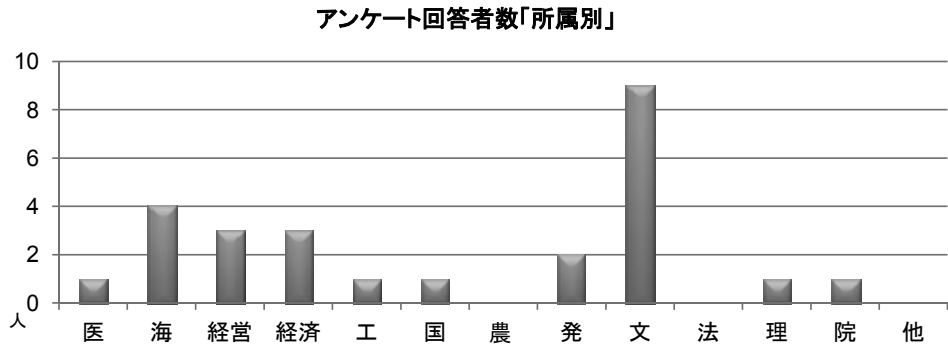
### 「CALL 室(自習室)の利用に関するアンケート結果」

2012年1月20日～2012年2月10日に、CALL 室(自習室)にて「CALL 室(自習室)の利用に関するアンケート」を実施した。

アンケートの実施方法については、自習室の前においてある「CALL 室利用簿」といっしょに自由に記入してもらおう形式をとった。アンケート実施期間中のCALL 室(自習室)利用者数は50名で、うち26名からの回答を得た。

以下にその結果を示す。

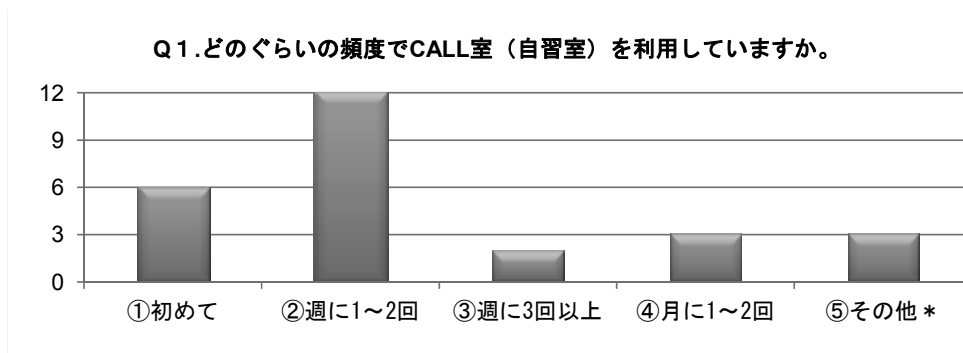
【アンケート回答者数「所属別」及び「学年別」】



\* 研究生

【アンケート回答者数及び詳細「質問別」】

Q1. どのぐらいの頻度でCALL室(自習室)を利用していますか。



\*課題のときのみ / 課題があるときはその都度/ 試験勉強

Q2. CALL室(自習室)の利用目的(複数回答可)

	①語学学習	②授業の課題	③パソコンの使用	④その他*
人数	10	11	16	1

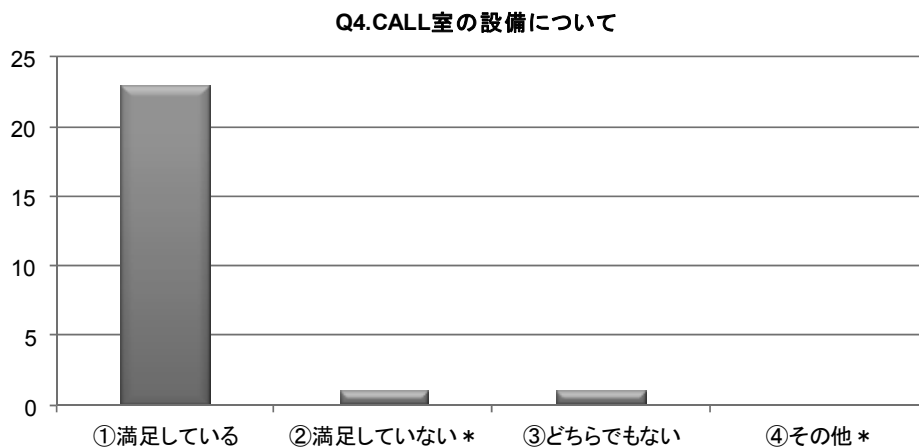
\*自習

Q3. Q2で「①語学学習」と答えられた方にお聞きます。主に使用されるソフトを教えてください(複数回答可)。

	①I-navi (英語)	②NetAcademy2 (英語)	③Onecampus (ドイツ語・フランス語)	④その他*
人数	2	6	0	1

\*自分の問題集

Q4. CALL室の設備について



\*②印刷が出来ないから/ 月曜日の4限の開放がないから

Q5. その他、ご意見やご要望などがございましたら、ご記入ください。

- ▶ 音量のばらつきを直してほしい
- ▶ 空きコマに利用している
- ▶ 場所が少し遠いですが静かだし、Windows なので、週に一回ぐらいは授業の空きコマに使用したい
- ▶ 月曜 4 限も開放してほしい
- ▶ 大声でしゃべっている人が多い
- ▶ 印刷が出来ない

## 6. マルチメディア・スタジオ (D409) 利用状況 (中井)

国際コミュニケーションセンターでは、マルチメディア環境を駆使した効果的な外国語教育を推進するため、マルチメディア・スタジオを設立し、2007 年 4 月より稼動している。2008 年度までは、プレゼンテーションセミナー修了発表会で学生の英語プレゼンテーションを撮影し、英語プレゼンテーションの動画データベース用に編集作業を中心に実施していた。現在は、教材作成や発表撮影、メディア編集などが中心である。

撮影に関してはほとんどがスタジオ以外の教室で撮影であった。定期的な撮影としては KALCS の発表会がある。その他は期中や期末に実施するテストの一環として利用されることが多い。また、撮影依頼とは別に小型ビデオカメラの貸出も増えてきた。授業、及びそれ以外の時間においてご自分で撮影する教員も少しずつ増えている。また、その撮影した映像を編集したいとスタジオを利用することもあった。

教材作成については、最近では DVD のコピーと DVD 映像のデータファイル変換が増えてきた。他は、カセットテープ→CD、DVD→音声ファイルの依頼がよく寄せられる。

表 3 2011 年度 主なスタジオ・撮影関係の利用記録

前 期		
5/24	火 1,2	仏語
5/30～	昼休み	KALCS 第1期発表会
6/27～	昼休み	KALCS 第2期発表会
7/7, 14	木3	外国語コンテンツ論(スタジオ)
7/11, 25	月4	オーラルⅢ(スタジオ)
7/16	祝	KUEPCON 2011(出光佐三記念六甲台講堂)
7/19	火 1,2	仏語
7/20, 27	水4	オーラルⅢ(スタジオ)
7/21	木 4	仏語
7/25	月 3,4	オーラル I
7/25～	昼休み	KALCS 第3期発表会
後 期		
10/24	17:00～	2011 年神戸大学海外外国語研修報告会
10/26	水 3	リーディングⅡ(ピアレビュー用授業撮影)
11/2	水 4	リーディングⅡ(ピアレビュー用授業撮影)
11/29～	昼休み	KALCS 第1期発表会
11/29	火5	独語(ピアレビュー用授業撮影)
1/11～	昼休み	KALCS 第2期発表会
1/23,30	月 3,4	オーラルⅡ
1/30～	昼休み	KALCS 第3期発表会
2/2	木 2,3	仏語



## 7. 2011年度購入品一覧（中井・田中）

2011年度 備品及び消耗品の購入内訳(2012年2月17日現在)

表5 「CALL 室保守等経費」予算による購入

購入日	品名及び詳細	金額
2012/1/26	K003J	4,819
2012/1/6	SONY オーディオコード RK-G134	945
2011/12/27	PPC 用紙 A4PPC-LA4N	5,580
2011/11/29	サンワサプライ LAN ケーブル KB-T6L-05	880
2011/11/28	CALL 教室障害対応作業	52,500
2011/10/31	JVC バッテリー QAB0078-002	13,500
2011/10/31	両面テープ NW-15	944
2011/10/27	エレコム USB メモリー他	3,920
2011/10/26	(中国語) プラザーインク LC11BK 他	7,280
2011/10/18	LPC4T7CV	43,942
2011/10/13	EPSON トナー (CYM)	73,710
2011/10/7	HP インク	12,048
2011/10/6	ブルーレイディスク/DVD レコーダー	91,350
2011/10/5	hp 110 plus インク	4,016
2011/9/28	D512(24番) PC 修理(ハードディスク交換)	59,220
2011/9/12	ELECOM ヘッドセット他	70,125
2011/8/26	サウンドユニット一式	26,880
2011/8/19	富士通 FMVD92D010 修理 HDD メインボード交換	70,350
2011/8/8	KINGJIM テブラテープ SS18K	13,230
2011/7/14	エルコムキーボード TK-UP01MALG	9,900
2011/7/11	JVC バッテリー他	14,180
2011/7/1	サウンドユニット一式	107,520
2011/6/23	エレコムヘッドセット MS-HS67BK	14,880
2011/6/7	オリンパス IC レコーダー他	39,540
2011/6/2	MF-FSDH16GC6	5,178
2011/6/1	コクヨホワイトボードマーカー他	31,250
2011/5/6	マウス MA-111HS	19,600
2011/4/28	SS9K	17,577
2011/4/18	ゼロテープ CT405AP-24	1,099
2011/4/1	HP インク C4836A	30,317
		846,280

\* 電気ケーブルのみ備品として購入

表 6 「外国語教育部門」予算による購入

言語	購入日	品名及び詳細	金額
英語	2012/1/5	Oxford English Dictionary, 2nd Edition,	22,259
			¥22,259
中国語	2011/10/27	メモ	1,360
	2011/10/27	USB メモリー*3	4,240
	2011/10/26	インク*2	5,600
	2011/12/27	PPC 用紙	5,580
	2011/10/27	USB メモリー*3	4,240
	2012/1/6	日中理論言語学の新展望 1 統語構造	3,024
	2012/1/6	日中対照表現論	1,890
	2012/3/14	PPC 用紙	4,770
			¥26,464
独語	2011/9/5	(独語) Duden Die deutsche Rechtschreibu	2,839
	2011/9/5	(独語) アクセス独和辞典	3,874
	2011/9/5	(独語) 独和大辞典	7,087
	2011/9/5	(独語) クラウン独和辞典	3,969
	2012/1/5	独検過去問題集 2011 年版<5 級・4 級>	2,646
	2012/1/5	独検合格スーパートレーニング	1,134
	2012/1/5	アクセス和独辞典	5,103
			¥26,652
仏語	2011/8/5	スパニッシュ・アパートメント(仏語 DVD)	1,168
	2011/8/5	青春シンドローム(仏語 DVD)	5,500
	2011/8/5	パリの確率(仏語 DVD)	5,883
	2011/8/5	ロシアン・ドールズ(仏語 DVD)	1,752
	2011/8/5	パリ(仏語 DVD)	4,408
	2011/8/5	家族の気分(仏語 DVD)	6,569
			¥25,280
露語	2011/8/8	ロシア語日常会話	2,457
	2011/8/8	ネイティブと学ぶロシア語会話	2,457
	2011/8/8	ニューエクスプレスチェコ語単語集	2,079
	2011/8/8	現代ロシア語文法 改訂新版	4,536
	2011/8/8	ロシア語文法便覧	4,252
	2011/12/1	全抒情詩集	4,725
	2011/12/1	ロシア正教のアイコン	1,512
	2012/1/5	はじめてのロシア語	1,795
	2012/1/25	らくらくロシア語 文法+会話	2,362
	2012/2/15	Крокодил Гена и его др	945
	2012/2/15	Русская лексика	3,150
	2012/2/15	Русская лексика	3,150
	2012/2/15	Русская лексика	3,150
	2012/2/15	Русская лексика	3,150
	2012/2/15	Спасибо! :начальный ку	4,987
2012/2/15	Настоящая русская еда	6,825	
2012/2/15	Пространство эссе	2,100	
			¥53,632
			合計: ¥149,517